

信州アディクションセミナー

ひきこもり当事者活動を学ぶセミナー 報告書

2012年1月18日

信州アディクションセミナー実行委員会 事務局

下記のようにひきこもり当事者活動を学ぶセミナーを開催しましたので、報告します。

1. 日時、場所

2012年1月15日 13:00～16:30

松本市 M ウィング (中央公民館、長野県松本市 1-18-1) 会議室 3-1 および 3-2

2. 参加人数

参加人数 80人 アンケート回収数 26 (回収率 33%)

3. 参加者のプロフィール

(アンケートからの集計)

男女比

男性 35%、女性 65%。

年代

ひきこもりのお子さんを抱える親にあたる 60代が最多でした。ひきこもりの本人は 30代、40代でした。

居所

今回は広報活動を開催地のある中信地方に集中させたため中信地区が 65%となりました。その他長野県内全域から 24%。3%は県外(群馬)から参加されました。

立場

複数回答で立場を尋ねたところ、ひきこもりの家族が 58%と最多でした(家族以外の親族は 12%)。次いでひきこもりの本人が 23%。またアディクションの本人・家族・親族の立場についても該当している人が合計で 34%みられ、アディクションとひきこもりの関係性をうかがわせる結果となりました。

認知機会

相談会の開催をどこで知ったか尋ねたところ、新聞の告知記事で知った人が 42%と最多でした。次いで、相互援助(自助)グループを介しての紹介が 23%。さらに、相談機関経由が 19%でした。具体的な相談機関名として、NPO 法人ジョイフルとパーソナルサポートセンターが挙げられていました。

4．効果

アンケートで相談会が役に立ったかどうか質問したところ、「役に立った」「少し役に立った」を合計すると9割の方に何らかの効果を感じていただけたようです。

とりわけ HA（ひきこもり・アノニマス）メンバーの体験談には家族の方の関心が集まりました。ひきこもり状態から回復し就労している人の話を聞くことで、解決への希望を見失った状態を脱し、否定的な自己イメージを取り払う効果があったと思われます。

他の支援機関の方のお話しでは、近年ひきこもりの親の会の活動が低調になり、今回の会場にはそうした親の会に参加したことがない方が目立ったため、同じ立場の他の家族と悩みを打ち明け合うという相互援助（自助）グループの効果を今回初めて体験された方も多かったと思われます。

また、他の相談機関・支援機関の情報や書籍などの情報が役に立ったとする意見もいただきました。

感想詳細については、別紙アンケート集計をご覧ください。

5．反省点

アンケートでは役に立ったという感想が多かったものの、一方で、地元で HA のようなひきこもりの当事者の会や、あるいは親の会があれば参加したいが、ないのが残念だという感想も目立ちました。今回は「当事者活動を学ぶセミナー」として HA の活動を紹介したものの、そもそも相互援助（自助）グループとはどんなもので、どう作っていけばよいかという情報を提供できなかったため、今回はきっかけ作りにはなったものの、そのきっかけをどう具体的に次の行動に結びつけていくかのノウハウを提供できませんでした。

当実行委員会はアディクションの分野を中心に活動しているため、ひきこもりは畑違いではありますが、メンバーはそれぞれに相互援助（自助）グループに参加・運営しており、当事者活動には慣れ親しんでいます。今後、ひきこもりの本人の会や家族の会を作るきっかけ作りや運営の支援を行っていくことも視野に入れております。

ひきこもりの問題は様々な要素が絡み合った複雑なものであることは重々承知しておりますが、今後の私たちの活動がその一助となれば幸いです。

6．当日実施内容

プログラム

体験発表

ひきこもり・アノニマス（HA）メンバー（12分×5人）

分散会（90分）4グループに分散して相談会

ひきこもり本人のグループ×1・家族のグループ×3

全体での質疑応答（15分）

今後のイベント案内やグループの活動案内

7. 報道

事前紹介記事が掲載されたもの

信濃毎日新聞

イベント告知欄に掲載されたもの

信濃毎日新聞（1回）、中日新聞、市民タイムス、大系タイムス、タウン情報

当日の取材

テレビ松本ケーブルビジョンの取材がありました。

8. 実行委員会活動

実行委員会メンバー20人。

実行委員会開催

2011年10/30、11/27、12/18（松本市西部公民館）

2012年1/15（松本市西部公民館）反省会。

9. 謝辞

当日会場まで足を運んで下さった多くの皆様へ感謝申し上げます。遠路東京よりお越し下さった HA メンバーの皆様、資料提供をいただいた団体の皆様へ感謝いたします。様々な相談機関、医療機関、行政機関、相互援助（自助）グループの方々、また信州アディクションセミナーを応援して下さる方が、広報に協力していただきました。またマスメディアの方々にもご協力をいただきました。それぞれに感謝申し上げます。

会場を提供して下さった松本市に感謝いたします。

このセミナーは、長野県青少年育成県民会議のユース・アクションサポート事業の助成を得て実施しました。ご支援に感謝申し上げます。

今回はユースアクション（若者世代の活動）ということで、実行委員会メンバーのなかでも若手が主力となり、同世代である HA メンバーを招いてのセミナーとなりました。実際に会場に足を運んでいただいたのはひきこもり本人よりも親の世代の方が多かったのですが、ご家族を通じて間接的にでも若いご本人に希望のメッセージが伝わることを願ってやみません。

当実行委員会では、本年秋に第3回信州アディクションセミナーを開催する準備を進めております。他の多くの団体に混じり HA も参加される予定で、体験発表と分科会を行います。どうぞご期待下さい。日程・開催地など具体化しましたらお知らせします。

今後、反省点を改善し、活動の幅を広げてまいりますので、皆様におかれましてはなにとぞ引き続きのご協力をお願いいたします。

以上